

IV 貯蓄・負債現在高階級別の収支

1 二人以上の世帯の状況

消費支出は貯蓄現在高が多くなるほど多い

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に1世帯当たり1か月間の消費支出をみると、貯蓄現在高が多くなるに従っておおむね消費支出も多くなっている。

費目別に消費支出に占める割合をみると、貯蓄現在高が多くなるに従って「教養娯楽」及び「その他の消費支出」はおおむね高くなっているが、「食料」及び「光熱・水道」はおおむね低くなっている（図15、表15）。

図15 貯蓄現在高階級別消費支出及び費目別構成比（二人以上の世帯）－平成22年－

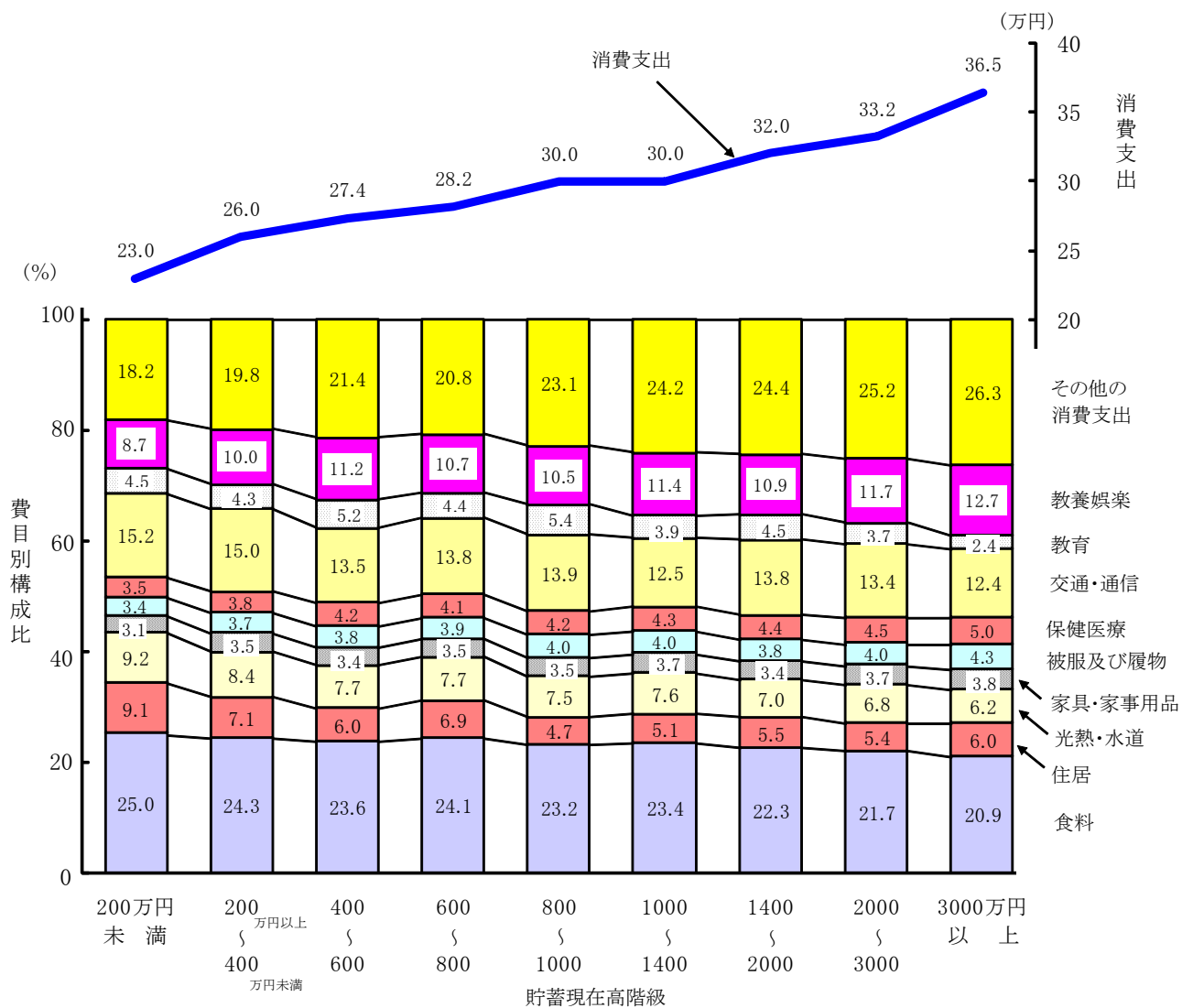


表15 貯蓄現在高階級別消費支出及び費目別構成比（二人以上の世帯）－平成22年－

項目	平均	200万円	200	400	600	800	1000	1400	2000	3000
		未満	万円以上 ～400 万円未満	～600	～800	～1000	～1400	～2000	～3000	万円 以上
世帯主の年齢(歳)	56.3	48.5	51.0	52.6	54.9	56.4	57.2	59.6	61.0	64.1
持家率(%)	79.7	58.8	72.0	74.7	78.8	85.6	85.4	87.1	88.9	94.0
有業人員(人)	1.36	1.48	1.47	1.44	1.41	1.44	1.38	1.27	1.26	1.15
金額(円)										
消費支出	290,244	230,052	260,100	273,778	281,642	299,680	300,038	320,000	332,215	364,633
食料	67,563	57,560	63,264	64,695	67,987	69,422	70,163	71,405	72,204	76,197
住居	18,179	21,004	18,469	16,304	19,506	14,036	15,188	17,584	17,795	21,721
光熱・水道	21,951	21,138	21,728	21,151	21,792	22,559	22,705	22,510	22,646	22,706
家具・家事用品	10,266	7,030	9,085	9,265	9,862	10,508	11,034	11,000	12,199	13,713
被服及び履物	11,499	7,856	9,562	10,439	10,871	12,118	12,111	12,160	13,240	15,827
保健医療	12,515	8,088	10,013	11,497	11,555	12,713	12,888	13,946	14,797	18,250
交通・通信	38,965	35,082	39,123	37,005	38,922	41,508	37,462	44,058	44,473	45,174
教育	11,734	10,366	11,282	14,281	12,517	16,225	11,843	14,480	12,179	8,880
教養娯楽	31,879	19,989	26,128	30,629	30,024	31,436	34,176	34,812	38,917	46,364
その他の消費支出	65,695	41,938	51,443	58,512	58,605	69,156	72,468	78,045	83,765	95,801
構成比(%)										
消費支出	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食料	23.3	25.0	24.3	23.6	24.1	23.2	23.4	22.3	21.7	20.9
住居	6.3	9.1	7.1	6.0	6.9	4.7	5.1	5.5	5.4	6.0
光熱・水道	7.6	9.2	8.4	7.7	7.7	7.5	7.6	7.0	6.8	6.2
家具・家事用品	3.5	3.1	3.5	3.4	3.5	3.5	3.7	3.4	3.7	3.8
被服及び履物	4.0	3.4	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0	3.8	4.0	4.3
保健医療	4.3	3.5	3.8	4.2	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	5.0
交通・通信	13.4	15.2	15.0	13.5	13.8	13.9	12.5	13.8	13.4	12.4
教育	4.0	4.5	4.3	5.2	4.4	5.4	3.9	4.5	3.7	2.4
教養娯楽	11.0	8.7	10.0	11.2	10.7	10.5	11.4	10.9	11.7	12.7
その他の消費支出	22.6	18.2	19.8	21.4	20.8	23.1	24.2	24.4	25.2	26.3

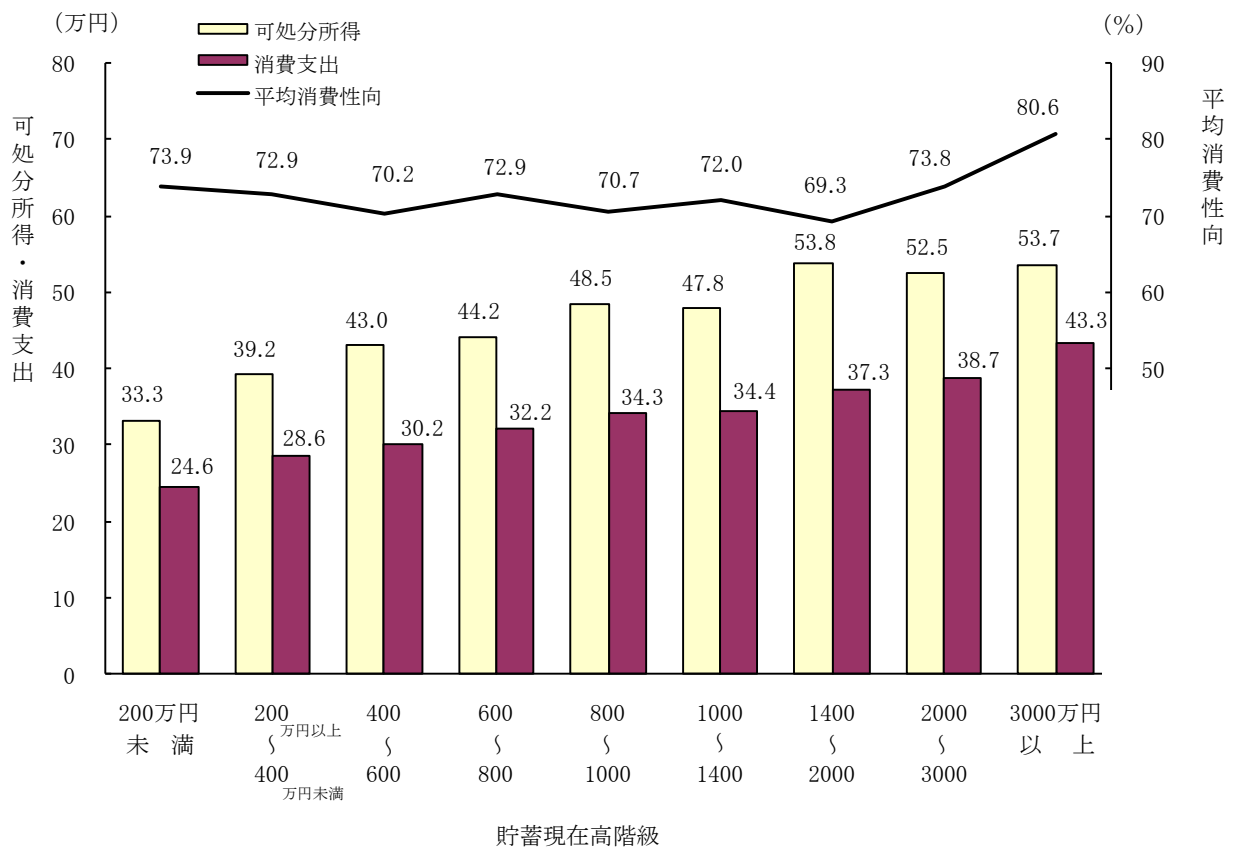
2 勤労者世帯の状況

(1) 平均消費性向は貯蓄現在高が3000万円以上の世帯で最も高い

勤労者世帯について貯蓄現在高階級別に1世帯当たり1か月間の収支をみると、消費支出及び可処分所得はおおむね貯蓄現在高が多くなるに従って多くなっている。

平均消費性向（可処分所得に対する消費支出の割合）は貯蓄現在高が最も多い3000万円以上の世帯で最も高くなっている（図16）。

図16 貯蓄現在高階級別可処分所得及び消費支出（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）—平成22年—



注1) 可処分所得とは、実収入から税金、社会保険料などの非消費支出を差し引いた額で、いわゆる手取り収入のことである。

注2) 勤労者世帯の平均消費性向（年平均）は74.0%

(2) 平均消費性向は負債現在高が多い世帯で低い傾向がうかがえる

勤労者世帯のうち負債を保有している世帯について負債現在高階級別に収支をみると、負債現在高が多い階級ほど可処分所得もおおむね多くなっている一方、可処分所得が多くなっても消費支出は必ずしも多くなっていない。平均消費性向をみると、負債現在高が多い階級ほど低くなっている。

また、住宅ローン返済額をみると、負債現在高が多い階級ほど多くなっている（図17）。

図17 負債現在高階級別可処分所得及び消費支出

（二人以上の世帯のうち負債保有勤労者世帯）－平成22年－

